

「ありがとう」から学んだこと

中学校三年

「ありがとう。」その言葉を、伝えることができていたら・・・。

僕は、剣道部に所属している。剣道は「礼に始まり、礼に終わる。」と言われるほど礼儀を重んじる競技で、僕は部活動を通して、技術だけでなく、礼儀も学んでいる。稽古や試合の最初に、必ず「お願いします。」、そして最後に「ありがとうございました。」と言う。そんないつも口にして、「ありがとう。」という言葉が伝えることができず、今も後悔していることがある。

僕が小学生の頃、学校から家に帰ると母が泣いていた。「どうしたん？」と母に聞くとおばあちゃんが亡くなったことを知らされた。僕は驚いたと同時に、おばあちゃんに「ありがとう。」と伝えていないことを思い出した。この前日、僕はおばあちゃんからお小遣いをもらっていた。母を通してお小遣いをもらっていたので、直接おばあちゃんにお礼を言えていなかったのだ。母にお礼の電話をするように言われ

ていたにもかかわらず、僕は「面倒だな。明日にしよう。」と、友達と遊ぶことを優先し、お礼を言うのを後回しにしてしまった。そして次の日、おばあちゃんは亡くなった。後回しにした結果、もう二度と「ありがとう。」と伝えることができなくなってしまった。おばあちゃんは、僕が欲しかった本が買えるようにとお小遣いを母に渡していた。僕の喜ぶ顔を見るのが楽しみだったようだ。そんな僕のことをいつも考えてくれたおばあちゃんになぜ早くお礼を言わなかったのだろうか、なぜ後回しにして遊びに行ってしまったのだろうか、何度も考えた。「ありがとう。」その言葉を、おばあちゃんに伝えることができたら・・・。それが僕の後悔だ。

僕は、おばあちゃんからもらったお小遣いを、今も使わずに残している。おばあちゃんの写真や思い出の物を飾っている所に、一緒に置いてある。そして、定期的に僕はそこに行き、おばあちゃんのことやお礼を言えなかったことを思い出す。

僕はおばあちゃんに言えただけの「ありがとう」という言葉一つから、言葉の重みや大切さを知った。それからは、僕は伝えたい事や伝えなければならぬ事を、面倒くさがらず、その時に伝えるようにし

ている。もう二度と伝えることができずに、後悔をしないように。

一方で、僕は逆の意味でも自分の言葉で後悔を招かないように、話す時にはよく考えてから話すようにしている。いじめや差別は言葉一つで人の心を傷つけてしまう。相手の気持ちを考えない不用意な発言をしないように心がけることが大切だと思う。何か腹が立つことがあると悪口やだめな発言をする人も多い。言った言葉は消えない。取り返しがつかなくなってしまうからでは遅いということのを頭に置いて発言しなければならぬ。

言わなくても、言ってしまったも、後悔することがないよう自分の「言葉」についてこれからもしっかり考えていきたい。